



児童生徒のよさを生かす支援

比内支援学校かづの校
地域支援部 野村亜弥子

小学校から特別支援学校へ勤務して、児童生徒への支援の仕方について学んだことがたくさんあります。その中から一つお伝えします。学習発表会での発表内容を決める時のことです。多くは台本を決めてから配役を決めるという流れになると思いますが、かづの校では、児童の得意なことを挙げた後、それぞれのよさを生かす台本を作ります。児童が得意なことですから意欲的に練習に取り組み、練習を始めた頃よりも上達し、自信をもって本番を迎えることができました。また、かづの校のヒーロー「リンゴレンジャー」は、地域の保育園や小学校等で交通安全や防犯などを呼びかける公演を行っています。生徒が「自分たちで作る」を合言葉に、配役や内容を決め、効果音やBGM等の演出もそれぞれの得意なことを生かして作り上げています。ステージ上での演技や裏方として機材を操作している生徒の姿は輝いていて、胸が熱くなります。

児童生徒に接する時、つい苦手なことに対する指導に力が入りがちでした。しかし、児童生徒が好きなことや得意なことにもっと目を向けて支援をすることが、子どもたちの自信と成長につながり、その他の分野にも良い影響を与えていることを実感しています。



得意なことを生かし、みんなが主役！



鹿角のヒーロー！リンゴレンジャー

みんなの合い言葉「き・こ・う」を実践しよう！～障害理解に関する出前授業の取組から～

比内支援学校かづの校

地域支援部主任 長崎尚嗣

今年度も交流及び共同学習の事前学習として、障害理解に関する出前授業を実践しています。かづの校の出前授業では、各校の児童生徒の障害理解の発達段階に応じた内容を組み入れながら行っています。A小学校では、居住地校交流を行う目の不自由な3年生のBさんの紹介や見えない、見えにくい演習を交えながら、目の不自由な方について学習をしました。実際の交流では、「B君は左目が見えないから、右側から話しかけよう」や「(イラスト)カードはB君の見えやすい高さで見せよう」など、出前授業で学んだことを実践している様子が見られました。C中学校とは今年度、ポッチャ交流を行いました。交流後の感想発表において、「今日は事前の授業で学んだ「き(気付く)・こ(声を掛ける)・う(動く)」を意識して、実際に行うことができました。これからも「き・こ・う」を様々な場面において実践していきたいです」と発表してくれた生徒がいました。毎年取り組んでいる障害理解に関する出前授業ですが、障害理解教育推進のためには改めて一つ一つの授業の積み重ねが大切だということを実感しました。障害理解に関する出前授業は各校のニーズに応じて行います。ぜひ活用してください。



目の見えない・見えにくい体験

【児童の感想】

「目が見えなくても、手でさわったりにおいをかいだりすると分かることがたくさんあることが分かりました。」

「シャンプーや牛乳など、普段の生活で使っている物にもたくさんの工夫があることが分かりました」

《学校見学・体験・出前研修会等の申込み先》

比内支援学校かづの校 地域支援部主任 長崎尚嗣
まで FAX か電話で御連絡ください。



お気軽に連絡
をください!

秋田県立比内支援学校かづの校
〒018-5201 鹿角市花輪字案内2
TEL: (0186)22-0253 (0186)22-2631
FAX: (0186)30-1245
E-mail: kazuno-s@akita-pref.ed.jp
担当: 副校長 加賀谷 勝
地域支援部主任 長崎 尚嗣